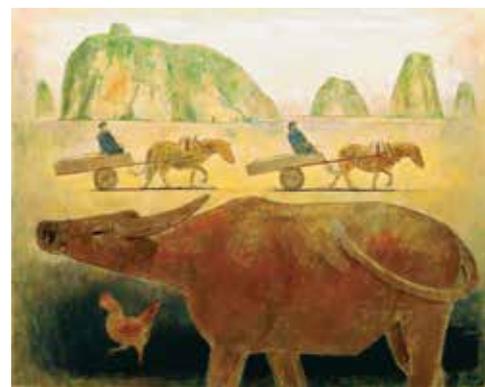
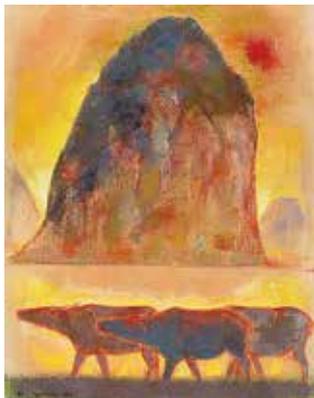


画家・小川原脩は、1911年に倶知安で生まれ、戦前の激動の時代を東京で活動し、戦後から2002年に91歳で生涯を終えるまで、郷里・倶知安で創作を続けました。その画業の中で大きな転換点といえるのが、晩年のアジアへの旅でした。中国桂林、チベット、インドのそれぞれの風物に、鮮烈な印象を受けた小川原は、旅先でのスケッチを繰り返し眺めては新たな発想の糧としていたのです。本展では、悠々とした自然、人、そして動物たちが織り成す、豊かな絵画世界を紹介します。



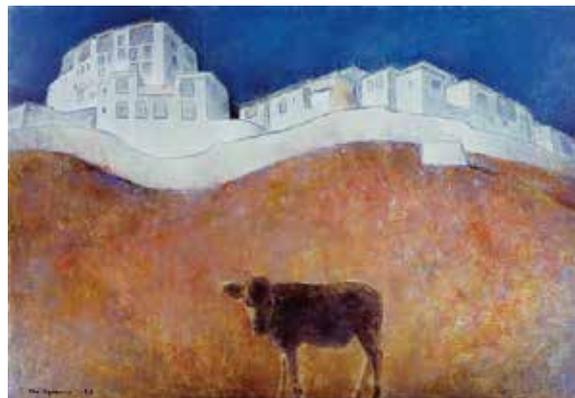
桂林 制作年不詳



滴江 1980



巡礼家族 1982



白い僧院 1984



水道 1984



暗闇のDUETT 1986



広場・女 1987

●同時開催

林雅治展「WORK 土でつくるもの」

2024年12月7日(土)～2025年4月13日(日)

小川原脩展「Humans and Animals 小川原脩のまなざし」

4月20日(土)～7月6日(日)



小川原脩
1911-2002

北海道・倶知安町生まれ。旧制中学(現・倶知安高校)で油彩を始める。東京美術学校(現・東京藝術大学)西洋画科に入学。在学中に「納屋」(1933年)が帝展に入選。卒業後、福沢一郎らと出会い「エコール・ド・東京」「創紀美術協会」「美術文化協会」などの結成に参加。シュルレアリスム絵画への道を歩んだが、軍の規制が厳しくなり断念。その後、軍の命令により戦争記録画を制作。

戦後は郷里・倶知安に戻り、岩船修三、木田金次郎らと「全道美術協会(全道展)」の創立に参加。1958年、野本醇、因藤壽、穂井田日出磨らと「麓彩会」を創立。1975年、北海道文化賞受賞。1994年、北海道開発功労賞受賞。この年、小川原脩画集(共同文化社)を出版。

戦後、倶知安町に定住してから半世紀以上、新たな造形の可能性を求め続けたが、とりわけ70歳を目前にして訪れた中国、チベット、インドでの体験を契機として創作の新境地を拓いている。



羊蹄山 制作年不詳



小川原脩記念美術館
Shu Ogawara Museum of Art

〒044-0006 北海道虻田郡倶知安町北6条東7丁目1 (0136-21-4141)
<http://www.town.kutchan.hokkaido.jp/culture-sports/ogawara-museum/>